訪ねる

■博物館「土の館」

土づくりの歴史伝える

真正面に十勝岳を望む上川管内上富良野町の丘陵地帯に、北海道遺産に選定されている土の博物館「土の館」がある。地元の老舗農機メーカー「スガノ農機」が1992年に本社わきに開設した私設博物館で、昨年、道内４件目の「機械遺産」にも認定された。

同社は大正６年（1917年）の創業。トラクターなどに装着して畑を耕す「プラウ（洋すき）」の製造・販売では国内のトップクラスの実績を誇る。

上富良野町は十勝岳の噴火による泥流で大きな被害を受け、農家は毒性が強い土壌の改良に辛酸をなめた。スガノ農機の元社員で現在は「土の館」の館長を務める田村政行さん(63)は「上富良野の土は重粘土や火山灰で重く、おまけに傾斜地。プラウには条件が厳しいが、ここで通用すれば全国で通じる。条件が悪いからこそ、逆に良かった」と話す。

「土の館」では100点以上の貴重な土壌標本や新旧の農機具、各種プラウなどを展示。機械化初期の輸入物や国産１号機を含む約80台のトラクターも並べ、土づくりの取り組みや泥流災害を乗り越えた地域の歩みを伝えている。

貴重な年代物のトラクターが並ぶ「土の館」の館内

「土の館」は上富良野町西２線北25号（☎0167・45・3055）。入館無料。土・日・祝日と年末年始は休館（10月11、12日は開館）。